

公益社団法人
中部日本書道会

濃飛

濃飛支部会報

第8号

●発行●

平成31年2月

濃飛支部広報部

電話 0573-65-6982

FAX 0573-65-6982

●印刷●

(株)協和印刷工業

題字 故永治秋聲

濃飛支部・支部活動によせて

石原 聲風



濃飛支部会報の
発刊も既に第八号
となりました。こ
れもひとえに先人
のご苦勞、会員の
皆様のご支援ご協
力があつての事と感謝申し上げます。

昨年は濃飛支部第三十三回展として恵
那市にて支部展・総会・講演会・交流会
を開催致しました。支部展に於いては、
作品も小作品を含め六十八点となり会場
いっぱい華々しく開催する事が出来ま
した。秋の研修旅行は四日市方面に向か
い、特に澄懷堂美術館にて本物の「古典」
を感じる事ができ、また交流も含め秋の
一日を楽しく過ごす事が出来ました。

今年度は濃飛支部に篆刻の部で活躍さ
れている方三名の入会があり、新しい風
により会を盛り上げて頂いています。

残念ながら訃報もあります。長年に亘
り役員として支部を支えて頂いた恵那の
砂場佳陽先生が昨年の暮れお亡くなり
になりました。享年八十四歳との事です。
御冥福をお祈り申し上げます。

平成の元号もあとわずかととなり、五月
より新元号となります。(公)中部日本書
道会本部でも既に来年度の事業の計画
予定がびっしりと詰まっています。本部
の行事に参加すると共に、支部の行事も

広報に記載にあるよう進行の予定です。
会員の皆様の参加をお願いします。

私事ですが、趣味の一つに山登りが有
ります。一昨年富士山、御嶽、八ヶ岳
その少し前に西穂高に登ったのが主な実
績、自慢です。目標は百名山、残すところ
後八十四かな？達成にはかなり？マー
クが付きます。しかし山頂に立った時の
感激は言葉には出来ません。登りが険し
い程という事になります。

書も毎日毎日書いていますが、之は頂
上などありません。師の永治秋聲先生が
亡くなりはや六年、迷い道の連続です。只、
「継続は……」を信じ。

支部の皆様、日頃は墨をすり、筆をもち、
書作活動に余念がない事と思えます。三
十一年もはや二ヶ月が過ぎ、厳しい寒さ
の中です。充分に体に気を付けご活躍を
と念じています。また、書道、支部活動
を通じて会員・地域の皆さんと交流を図
る、又書の文化の普及が少しでも出来た
らとそんな思いでいっぱいです。

会員皆様のご支援ご協力を、お願い申
し上げてましてご挨拶と致します。



平成三十年度

濃飛支部集會

日時 七月二十九日(日)

会場 恵那文化センター(恵那市)

支部展三日目の一時より二階の会議室
に移動して第三十三回の支部集會を開催
しました。本部より副理事長岡野楠亭先
生、総務部長天野白雲先生が御臨席くだ
さり御挨拶を戴いた後、石原聲風支部長
進行のもとに二十九年度事業報告、収支
決算報告を受け承認されました。次に三
十年度事業計画案、収支予算案が提案さ
れ、いずれも可決されました。



第三十三回濃飛支部展

会期 七月二十七日(金)

～二十九日(日)

会場 恵那文化センター

出品点数 六十八点

(内訳)

中日書道展出品作品 三十九点

小作品 二十四点

本部より賛助出品 五点

理事長 関根玉振先生

副理事長 伊藤仙游先生

岡野楠亭先生

松下英風先生

事務局長 大池青岑先生

広い会場一杯展示されました。賛助出
品の先生方の作品には会員が多く集ま
り、研究会も始まっていました。又、今
年新たに濃飛支部に加わって戴きました
篆刻の作品が珍しく、作品を通じて会員
相互の話題も尽きない様でした。入場者
は三日間で三百名を越えました。



濃飛支部展の感想

安藤 朱游

明けましておめでとうでございます。今年もよろしくお願ひします。昨年濃飛支部に入会させてもらい、ありがとうございます。新しく入会する事は、会に解け込む事が出来るか不安でしたが、濃飛支部の皆様は分け隔てなく色々な事を教えていただきありがとうございました。入会させてもらってからもたつていないので、右も左も分かっていないのですが、皆様にはやさしく指導していただき嬉しく思っています。

さて、昨年七月二十七日、二十八日、二十九日には(公)中部日本書道会の濃飛支部展が恵那文化センターにて開催されました。(公)中部日本書道会の理事長、副理事長、事務局長の先生方の作品と濃飛支部会員の皆様の力作、大作を拝見させていただき刺激をもらいました。私ももっとしつかり作品に取り組み、制作しなければと思いました。二十九日には濃飛支部集会有り、岡野先生、天野先生にも出席していただきました。講演会は桑田靖之先生の『源氏物語の魅力』の講演があり、桑田先生の熱のはいった、楽しく、面白く、興味深いお話がありました。この続きの講演が楽しめたいなと思ひました。その後、交流会があり、会員の方々と話も出来て楽しい時を過ごす事が出来ました。

また皆様の中で篆刻を始められる方がある事を願っております。



濃飛支部講演会について

松田 秋芳

濃飛支部展最終日(三十年七月二十九日)桑田靖之先生にお願ひし(源氏物語の魅力、レジュメ)と題して講演を受ける事が出来ました。折角の良い機会なので会員のみならず他の方にも声かけし大勢の方に来ていただき部屋一ぱい詰めていただきました。

紫式部によって平安中期の宮廷生活を描かれた源氏物語を要約して話して下さいました。今から千余年前に書かれた源氏物語、当時の宮中の様子、天皇の子として生まれた光源氏は幼少より美貌と聡明により女性にもてはやされ数々の恋の遍歴を重ねていった。日本貴人の三要件和魂、漢才、色好みで光源氏は希代の色好みであった。ずい分あややかな恋(異常性愛)をしてきた。なんとプレイボーイだったのか。光源氏が堅物だったら女性にとって何の魅力もなかった。関係を持った女性は終生面倒をみる。その様子を先生は自分があたかもその場に居る如くに身振り、手振りを交えて話して下さいました。つられて笑い乍ら聞いているうちにあっという間に時間が過ぎてしまいました。



二年前に中日書道会濃飛支部の研修旅行で徳川美術館へ行き(源氏物語絵巻)を見た事を思い出して乍ら桑田先生のお話を聞き少しは源氏物語を知る事が出来たかな...と思ひました。私自身今迄ボーツ

として生きてきましたので学が無く源氏物語を読んだ事がありません。先生どうも有難うございました。

濃飛支部交流会

工藤 雅翠

日時 七月二十九日(日)
会場 恵那峡グランドホテル

恵那の笠置山は、仏様が編笠をかぶり涅槃のお姿をしていると、土地の方に聞きました。雄大な笠置山を望む恵那峡グランドホテルにて交流会を開催しました。たんぼぼ作業所恵那二十名による大小のまつりだいのリズムで華やかに始まりました。心の中で響き渡る様な強い音、一人一人の気迫に満ちた演奏に強く心が動かされました。遠くは、高山始め下呂、中津川、恵那と広範囲に渡る会員の交流と諸先輩方との出逢いを嬉しく思ひながら書を通しての切磋琢磨する作品の話をし、長く続いてきた三十三回濃飛支部が開催出来る事に感謝して会員の皆様の楽しいような笑い声を耳にのこし、又お陰でうれしい出逢いの一時を過ごすことが出来ました。今年も宜しくお願ひ申し上げます。



第68回中日書道展 入賞・入選者

- 準特選 成瀬 伸芳
秀 逸 磯村 小園/長谷川鳳声
渡辺 敬月
奨励賞 阪田 華香/田中 凌山
佳作 中垣かづ江

準特選賞 受賞者

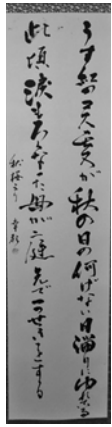
成瀬 伸芳



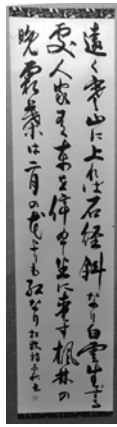
この度は、「中日書道展 準特選賞」を頂き誠にありがとうございます。書を始めしたのは高校よりで四十余年となりますが、勤めながら墨を磨り夜中に仕上げたものです。九州の本誌やペン、かな、又書統の漢字かな交り、長鋒の筆の出会い、師のもとに楽しみながら筆の持てる人生を過ごして本当にありがたく思っています。おかげ様で多くの師、友を得ることができました。

地元、中日展に出品するのは何年前から今さらながらと思ひましたが、今までの教えを血や肉として師の意図する事はこれだったのかと自分で一つ一つ確認しながら試行錯誤して作品作りに臨んでおります。この様に賞を頂けることは、本当に嬉しく思っております。また濃飛支部の諸先生方の温かい励ましが頂け何よりでございます。今後共、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

第二十七回 書展 出品者



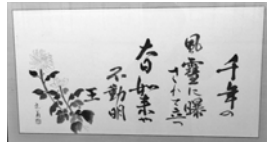
中垣 幸聲



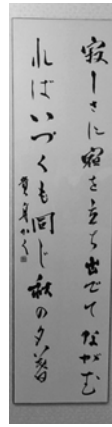
齊藤 千秋



増田 春暉



森 京華



中川 貴舟

研修旅行

「澄懷堂美術館等の 視察研修に参加」

三野島 凌雲(孝)

去る平成30年11月11日に平成最後の濃飛支部視察研修が、会員27名参加して行われました。

最初に四日市市にある澄懷堂美術館を見学しました。懇切丁寧な学芸員の説明と中国の貴重な作品を鑑賞することができました。展示作品は、明時代の董其昌や王鏊、文徵明、張璠から清の金農などの書画がメインでしたが、国内の巻菱湖などの能書家の作品もありました。書の原点として中国の大作書画の鑑賞は、線質の芸術の向上と精神の高揚につながると思います。

中国大陸の風土や歴史的背景から時代ごとの書作品を見ると明の作品が目立っていましたが、やはり草書家の作品が多々、草書の字の勢いが感じられ、空間を多々満たして観る人に迫ってくるような迫力を感じました。また、一字一字を丁寧に書いてあることから、草書ながらも筆圧を入れ運筆が遅筆気味で力強さが感じられました。大作があり当時鑑賞できる貴賓室の大きさがあつたことに感心しました。

書を学ぶものとして、今回中国の書の名品を深く知る上で、当視察は意義あるものでありました。今後も当館の企画コレクション展の中でも倪元璐や翁方綱、包世臣の収蔵品などの他家隷書作品などを素材とし、強靱さ・明瞭さ・自由さの視点で鑑賞できれば幸いです。

国内の能書家においても、江戸時代・明治時代の書家が同時代の中国の書にかなり影響を受けていることから同時に鑑賞することは、当時の能書家が中国の書画から吸収した諸要素がどのように芳香を放っているかなど、線質の芸術の向上・比較考察に参考になりますので次回企画展を楽しみに

にしています。次に湯の山温泉で美味しい料理をいただき、昼食後パラミタミュージアムを見学しました。

ここでは、約千坪の敷地に池田満寿夫氏の彫刻や般若心経シリーズの常設展がありました。版画家ではありますが晩年の陶彫作品の般若心経シリーズの作品からは、作家のエネルギーが感じられ、観る人を惹きつけています。

版画の専門家がこれだけ大掛かりな般若心経の作陶を何故制作されたのか？作家の芸術に対する集大成として意気込みを感じた次第です。また、これだけの立派な作品を、一か所に収蔵された当美術館設置者の人徳の高さに敬意を表する次第です。

さらに作品の心経碑の文字や心経陶板、地藏、佛塔など、「形あるものは必ず無くなる」「色即是空・空即是色」の精神と陶芸と結び付けた池田氏の芸術の表現、書の般若心経からは、無から有を生む芸術の追求への想い、諸行無常、こだわらない心が感じられ、素晴らしい作品でした。当作家が「空」の精神を取り入れられたことと精進の凄さに感心するとともに、書家として般若心経の「心」を大切にしていたものと

資料によると池田満寿夫氏は、昭和9年に旧満州にお生まれになり隣の長野県長野市で青年期を過ごされ版画家として大成され、平成9年に63歳で満壽院彫彩心酔大居士の戒名で亡くなっています。当作家の芸術作品の表情に感銘を受けた一人として、

混沌とした今日、さらに今後とも鑑賞された方に強烈に発信していくことを祈念するものです。芸術として心を書で表現し、人に感動を与える作業を行うものとして素晴らしい研修となりました。ありがとうございました。ありがとうございます。



さんぽみち

「北イタリアを旅」

長谷川秋峯



昨年十月中旬にテレビでも時々紹介され世界遺産にも登録されているイタリア北部ロミテ街道と湖水域をめぐるツアーに参加しました。

それは素晴らしい景観に魅了された旅行でした。訪ねた時期は観光オフシーズンでしたが天候にも恵まれ、イタリア側から見るアルプスのマッターホルン、雪を被ったモンブランを眺望しその雄大な風景に感動しました。この山岳地方では観光のための最新のケーブルカーが設置されており急勾配をゆくり回り回転しながら上がる車内からは乗車位置を変えなくても山岳の大パノラマを堪能することが出来ました。湖水地方では有名人の別荘が建ち並ぶコモ湖を船で巡り、ローマ遺跡が残るガルダ湖では湖畔から湧き出る温泉に触れ遊びました。また山村の教会を山並みを背景に撮った写真は絵葉書にも出来そうですねでした。旅行代金を重視し観光シーズンははずした海外旅行ではありましたが観光客が少ない分ゆくり見えて回ることが出来ました。機会があれば美しいマッターホルンをスイス側から眺めてみたいと思っています。

各社中だより

第三十六回 暢陽会会員展
第五十六回 永治書院学生書道展

日時 十月十九日～二十一日

場所 中津川市にぎわいプラザ5階
第三十六回展は「繋ぐ構くそして心を書く」というテーマのもと、16名の会員の作品60点、学生の部の半切大の作品68点で、会場一杯の展示となりました。

作品作りは、自分の気持ちに寄り添ってどう表現するかがとても難しく、後藤啓太先生の御指導に大きな指針を頂いて筆を進める事が出来ました。

学生の作品も、各自が一番書きたい言葉を一筆表現して、御家族の皆様にも楽しんで御覧いただきました。

会期中、書泉本部の荒木みさ様をはじめ、下呂・恵那方面など、大勢の皆様にご覧頂きました。厚く御礼申し上げますと共に、今後共御指導をお願い申し上げます。



瑤藍印社一門展

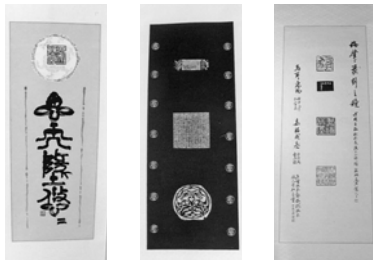
堀 梅肇

去る平成三十年十二月十八日より二十四日迄、名古屋栄の電気文化会館にて第五回「瑤藍印社一門展」が開催されました。

今展では昨年二月に逝去されました瑤藍印社代表中島藍川先生の遺作展を併催し、大胆豪放で力強い往時の作品を偲びました。

また藍川先生は西冷印社名誉理事でもあられたことで特に親交のあった西冷印社の劉江・韓天衡・陳振簾・朱関田・童衍方・余正・李剛田他各先生の賛助出品も頂き、全百五十名程の作品を西館に特別展、東館に会員独自の特徴を生かし篆刻を織り交ぜた作品を中心に書画多様な作品が展示されました。

さらに同展作家級会員の先生方の游印の展示も盛況のうち終了し、昨年の年頭から岡野楠亭先生を先頭に理事の先生方、会員の総力を集結した展示であったと末端でお手伝いした喜びを感じました。



堀 梅肇

安藤 朱游

長谷川 鳳声

** 新入会員紹介 **

- 堀 梅肇 恵那市明智町
- 安藤 朱游 恵那市明智町
- 長谷川 鳳声 恵那市明智町
- 近藤 峻岳 中津川市手賀野

平成31年度 事業活動計画

事業名	予定年月日	実施開催場所
支部展	平成31年7月 平成31年7月 平成31年7月	中津川市にぎわいプラザ5F
支部集会	平成31年7月	
講演会	平成31年7月	中津川市
支部交流会	平成31年7月	
企画委員会	平成31年4月 平成31年9月 平成32年3月	下呂市 中津川市
役員会	平成31年6月 平成31年7月 平成31年12月	下呂市 中津川市 恵那市
研修会	未定	未定
支部報9号	平成32年2月1日発行	300部

新規会員募集

昨今、あらゆる文章、年賀状に至るまでコンピューターの活字となり、毛筆を見掛ける事が殆ど有りません。
ある人の詠まれた歌に
「鏡には うつらぬ人の真心も
さやかに見ゆる水茎のあと」
毛筆には言葉と異なる味わいを感じ入ります。毛筆で心を伝えてみませんか。一緒に交流を図り乍ら、楽しく書を学んでみませんか。入会をお待ちしています。

会員部より

詳細は事務局まで。(担当) 大野聲泉

☎〇五七三二一八―二三二八

編集後記

新しい年の初日の出は目映ゆく輝いていた。何事もなく良い一年であることを祈った。昨年の事は余り思い出したくもないが次から次へと起こる改竄、隠蔽などの不祥事、災害等何一つ解決されないまま忘れ去られていく。人々は忘れる事で安心を得るのであるのか。然し人間として絶対に忘れてならない事、守らねばならない事がある。正義と命の尊厳である。地震国日本災害国日本の自然と風土を守るため叡智を働かせなければならぬ。

さて、濃飛支部広報も八号が発行出来る運びとなった。今年原稿を寄せて下さった方は十五名余会員の叡智の結集である。忙しい中、編集に参加し協力して下さい多くの会員さんのお陰でもある。編集を終え読み返してみると活動の多さと深さに感動する。会員が前向きに次なるものを追求し歩み続けている証でもある。濃飛支部会員のすばらしさに拍手である。今年も健康で目標を持って互いに精進出来る事を願う感謝の意を表したい。

(広報部長 中垣幸聲)



イタリア側からのマッターホルン